

平成 23 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」  
共同利用型研究の報告書

杉戸 勇気（東京大学大学院博士後期課程）

申請者はこれまで 1990 年代のチェコ文学を中心に研究を行ってきた。今回の調査ではこの一環としてビロード革命以後にデビューした作家たち（ヤヒーム・トポル、ダニエラ・ホドロヴァー、ミハル・アイヴァス、ミロシュ・ウルバンら）に関する文献を収集することを第一の目的とした。

収集した文献のうちで特に興味深かったのは Martin Pilař, “Underground: kapitoly o českém literárním underground”, Host, 1999 である。この書物にはチェコの作家たちがビロード革命以前に行っていたアンダーグラウンドシーンでの運動が詳細に記されており、この運動を 50 年代から年代を追って知ることができる。1968 年のプラハ事件から始まる「正常化」以前の文化環境を知る世代と、「正常化」以後に生まれてソヴィエトの衛星国家としてのチェコスロヴァキアの文化環境で育った年代の差異について考察がなされていた。この書物にはフラバルと親交が深かった美術家ヴラジミール・ボウドウニークについての論考も収められ、申請者にとっては目下新たに興味を持って取り組んでいるテーマとつながることから望外の収穫となった。1990 年代のチェコ文学は所謂ポストモダン文学である。ポストモダン文学までの芸術思潮の変遷を追おうとすると、結局のところ 19 世紀末から始まるモダニズム運動に行き当たる。申請者は補足的な調査として、19 世紀をテーマにしてチェコ本国で開催された 2000 年代のシンポジウムの論文集を複写して持ち帰った。研究をまとめ、成果を公表できるように努力したい。

申請者は 2011 年 12 月 9 日から 11 日の期間にスラヴ研究センターに滞在した。センター付属の図書室と北海道大学図書館を利用した。工事の為に一部が閉鎖されていたが、当初予定した計画のほとんどは遂行することができた。訪問の事前調査で日本オーストリア学会の学会誌第 11 号に記載されている橋本聡氏による報告書『チェコ文学によるモダン都市プラハの解読——北大スラヴ研究センターのチェコ文学コレクションについて』の存在を知り、この有益な報告書を手掛かりにスラヴ研究センターの所有する一次文献のいくつかに辿りつくことができた。チェコ語で書かれた資料が国内では貴重な中、揃えられたコレクションを実際に目の前にしてその充実ぶりに驚いた。末筆ながら、素晴らしい機会を与えてくださった北海道大学スラヴ研究センターに心から感謝を申し上げる。